

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0871000238		
法人名	有限会社 ヘルスケア下妻		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地 (電話番号)	茨城県下妻市下妻石の宮24-1		(電話)0296-45-1500

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月12日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成19年10月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造2階建て 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	48,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87歳	最低	77歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	軽部病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅街の中に溶け込むようにあり、近くには利用者と職員が管理をしているポケットファームがあり、季節の野菜や果物の収穫を楽しんでいる。利用者は穏やかな表情が印象的で個々に趣味活動を行なえる環境にある。その利用者のペースを大切にしながら、職員は日々安心して生活できるよう気を配っている。管理者と職員はより質の高いケアを目指し、家族や地域住民から届いた意見を大切にし、協力し合いながら運営を行なっているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価を受けてホーム全体での話し合いを持ち、地域との関わりについて、職員の教育や研修への参加、記録の見直しについて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が中心となり、職員と話し合う機会を持ちながら自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度の会議を行い、行政・家族からの意見や要望の確認を行なっている。行事報告や災害時の地域協力などを呼びかけており意見交換が活発に行なわれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会の際には必ず近況報告や要望の確認などを行なっており、コミュニケーションを常に取るようにしている。またホームの広報誌の発行について意見があり2ヶ月に1度ほど発行できるよう現在取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームで自治会に入会しているため、お互いの情報交換が行なえる環境にある。また、近隣のホームに対する理解も深く、様々な点で協力を得られておりホームでのイベントにも多数参加している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に「安心・信頼・満足」を理念に掲げ地域に根ざしたホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼での唱和を行い一日のケアが理念に沿ったものになるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	挨拶を交わしたり地域内の清掃活動に職員が参加したりとご近所付き合いが自然に行われている。また、回覧板を使って地域とホームとの情報交換が行なわれている。		今後は利用者も職員と一緒に地域活動に参加できるよう働きかけに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行なう事で今までのケアの見直しができたという共通理解がされている。また、改善計画シートの活用もされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度行なわれており行政や家族との意見交換の場として有効に活用している。		今後は参加者の入れ替えなどを行いより多くの意見を反映できるようにしていきたいと考えているので、実践に向けての取り組みを期待したい。

茨城県 グループホームうらら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居状況報告を通し行政とホームとの情報交換が行なわれており、お互いに相談できる環境づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	身体状況の変化や現金の出納についての報告にあわせ面会時には日々の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切にする事で意見も多く集まっている。問題になる事はその都度ミーティングなどで話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での移動も最小限にしており、新職員には利用者とのコミュニケーションを重視して信頼関係が早期に築けるよう他の職員が配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを援助できるよう管理者は取り組んでいる。外部研修への参加はスタッフの調整などで難しい場合もあるが参加した際は伝達研修をミーティングで行なっている。	○	外部研修の通知等を職員が閲覧できるようにし、更に多くの研修参加ができ、また、内部での勉強会で学びの共有ができるよう取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会への入会と共に市内での連絡協議会を立ち上げている。近隣ホームの見学などを行い情報交換を行っている。		今後は市の連絡協議会で事例検討会や勉強会などを行なっていきたいと考えているので、実現に向けての取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は随時受け付けており、またお茶や昼食など利用者と一緒に過ごす時間を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る力を見つけ出しそれを行なってもらう事で自信を持ってもらえるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関わる時間を設けることで本人の意向の確認を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの利用者の担当スタッフが中心となり情報収集を行なっている。ケアカンファレンスで情報共有を行いご本人・家族の意見を反映し計画作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング実践記録表に基づいての見直しが行なわれている。また、月1回のケアカンファレンスでの情報交換を通し経過を確認している。	○	モニタリングや個人記録の書式を職員間で検討することで更に見直しが行ないやすくなる事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと協力体制が出来ており、イベントや交流が持たれ利用者の楽しみの一つとなっている。また地域の方からの相談も寄せられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診をかかりつけの病院で行なっている。その他、往診にも対応してくれる協力病院がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医との連携を図りながら終末期の取り組みを検討している。	○	終末期に向けての方針を固めると共に、マニュアルや書式の整備などを行い職員やご本人・家族との共通理解を図りながら安心できるケア提供に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取り扱いに関する書式も整備され記録物も他者の目に触れないよう保管されている。また、職員の言葉かけにも配慮が感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを乱さないことを第一に考え、レクリエーションなども無理強いせず希望に沿ったものを提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食材の買出しや調理まで共に行なっており、食事を楽しんでいた。		食事の混乱をしている方への援助の場所を検討していくことでより楽しい時間の提供が出来る事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のほとんどが午後からの入浴を希望されるが早い時間の入浴にも対応できるようにしており、季節のお風呂も提供している。		夜間入浴に関しては現在検討されているため、希望者に対して実践できるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割、楽しみごとは利用者に合ったものが提供できるよう把握に努めている。また、月の行事を入れることで気晴らしの支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑の管理など日常的に行なっている。また、一泊旅行や遠足など行事も多くある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関などの鍵は掛かっておらず、職員の見守りの中、利用者は安全に戸外に出られるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと訓練が行なわれており、地域との連携が図れるよう取り組んでいる。また、施設を避難所として提供していけるよう取り組んでいる。		非常用の水や布団類の準備はされているため、食糧の整備を行なう事でより安心な対策が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の他に食事制限の必要な利用者に対しての対応も行なっている。水分摂取もこまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良くコタツやソファなどが置かれ利用者が寛げる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしてきた馴染みの物や趣味のものが置かれており、居心地が良い空間作りがされている。		